私の視点

日本福祉大学准教授
原田（はらた） 忠直（ただなお）

12-10-22
A

日中関係

真の世論に耳澄ませ

中国各地でデモが繰り広げられたときのこと。留学中の私のもとに、「大丈夫？」と心配するメールが毎日のように届いた。幸いネットをチェックしてさえいれば、デモの回避は決して難しくはなく、「大丈夫です」と言い続けられた。デモは計画的で、自然発生的に起きているわけではなかったからだ。

今後、予測不可能なデモが生じる事態になれば、そんな呑気（のんき）なことは言えなくなる。そのとき危険にさらされるのは、私だけではない。私を気遣ってくれた友人、知人を含む日本人のすべての安全が脅かされるだろう。

日本ではネット上の書き込みが中国の世論であるかのように伝えられているが、大きな間違いだ。では世論はどこで形成されるのか？　それはレストランであり、喫茶店であり、カラオケ屋である。人びとの語らいのなかで世論は形成されるのだ。

特に重要なのが宴会の場だ。政府関係者と一般人が酒を酌み交わす場で、政府（共産党）の意向と庶民感覚が混じり合い、世論が形成され、社会の動向に大きな影響を与えていく。

ネット上でどんなに激しい反日発言が繰り返されていても、宴会の場で政府関係者がいったん「あくまでネットの話です」と発言すれば、それはじわりと広がり、人びとは政府の平和志向を読み取って、数日間のうちに社会に浸透する。

中国で現地調査をする私は地方政府の役人と関係をつくるため、しばしば宴会に出席した。だが大規模なデモが始まると声がかからなくなり、政府関係者からの連絡も途絶えた。日本企業の訪問も「中止」が相次いだと聞く。

私は、暴徒化したデモより、日本人がこのように拒絶されている事実こそが深刻だと思う。これまでの反日とは根本的に質が異なる世論が透けて見えるからだ。

日本政府の最大の失敗は、9月上旬の段階で、中国の真の世論の「揺れ」を感じ取れなかったこと、あるいは知っていたのに無視したことである。その責任は重い。

他者の気持ちをくみ取れない人が愚かであるように、他国の世論を読みとれない政府に、外交の責務を果たす力量はない。力量不足のしわ寄せは一般の国民にくる。

隣人との関係はいかなる形が望ましいか、私たちは冷静に再考すべきだ。いまは隣人の家に入りにくくても、彼らは私たちの真の声まで拒絶しているわけではない。お互い、相手の真の世論に耳を澄ます営みが必要だ。

4